【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成27年4月23日(2015.4.23)

【公開番号】特開2013-195677(P2013-195677A)
【公開日】平成25年9月30日(2013.9.30)
【年通号数】公開・登録公報2013-053
【出願番号】特願2012-62249(P2012-62249)
【国際特許分類】
Ｇ０９Ｆ　9/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０９Ｆ　9/00　３０４Ｂ
Ｇ０９Ｆ　9/00　３５０Ｚ
Ｇ０９Ｆ　9/00　３４６Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成27年3月9日(2015.3.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
正面側に配置される表示手段と、該表示手段を駆動する駆動回路部と、前記表示手段を正面側から覆うケース部材を備えた表示装置であって、
前記ケース部材は、表示装置の正面側から背面側に延在する側壁部と、該側壁部から正面側に折り返された折り返し部を有し、
前記ケース部材の側壁部に形成した開口穴部を通して、前記駆動回路部が前記折り返し部と熱的に接触していることを特徴とする表示装置。
【請求項２】
前記開口穴部に伝熱部材を配置し、該伝熱部材を前記折り返し部および前記駆動回路部と熱的に接触させたことを特徴とする請求項１に記載の表示装置。
【請求項３】
前記表示手段を正面側から覆う外装部材と、
前記表示手段の背面側に配置されて前記外装部材および前記ケース部材を保持するシャーシ部材を備え、
前記シャーシ部材は、表示装置の背面側から正面側に延在する側壁部を有し、該側壁部にて前記外装部材および前記ケース部材を保持する部分に、前記駆動回路部から前記外装部材へ伝熱する経路を遮る切り欠き部が形成されたことを特徴とする請求項１または２に記載の表示装置。
【請求項４】
前記切り欠き部は、前記外装部材を保持する位置と、前記ケース部材の折り返し部に対向する位置との間に形成されて表示装置の正面側から背面側に延在するスリットであること特徴とする請求項３に記載の表示装置。
【請求項５】
正面側に配置される表示手段と、該表示手段を駆動する駆動回路部と、前記表示手段を正面側から覆うケース部材と、前記表示手段および前記ケース部材を表示装置の背面側から保持するシャーシ部材を備えた表示装置であって、
前記ケース部材は、表示装置の正面側から背面側に延在する側壁部を有し、該側壁部に

開口穴部が形成されており、
前記開口穴部を通して、前記駆動回路部が前記シャーシ部材と熱的に接触していることを特徴とする表示装置。
【請求項６】
前記開口穴部に伝熱部材を配置し、該伝熱部材を前記シャーシ部材および前記駆動回路部と熱的に接触させたことを特徴とする請求項５に記載の表示装置。
【請求項７】
前記表示手段を正面側から覆う外装部材を備え、
前記シャーシ部材は、表示装置の背面側から正面側に延在する側壁部を有し、該側壁部にて前記外装部材および前記ケース部材を保持する部分に、前記駆動回路部から前記外装部材へ伝熱する経路を遮る切り欠き部が形成されたことを特徴とする請求項６に記載の表示装置。
【請求項８】
前記切り欠き部は、前記外装部材を保持する位置と、前記ケース部材に前記伝熱部材が接触した位置との間に形成されて表示装置の正面側から背面側に延在するスリットであることを特徴とする請求項７に記載の表示装置。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
本発明の一実施形態の表示装置は、正面側に配置される表示手段と、該表示手段を駆動する駆動回路部と、前記表示手段を正面側から覆うケース部材を備えた表示装置であって、前記ケース部材は、表示装置の正面側から背面側に延在する側壁部と、該側壁部から正面側に折り返された折り返し部を有し、前記ケース部材の側壁部に形成した開口穴部を通して、前記駆動回路部が前記折り返し部と熱的に接触していることを特徴とする。